

【ポスターセッション】

## 自立生活運動としての車いす市民全国集会

—各大会報告書の検討を通じて—

○ 大分大学 廣野俊輔 (6293)

キーワード：車いす市民全国集会，自立生活運動，まちづくり

## 1. 研究目的

本報告の目的は、車いす市民全国集会 による運動が日本の自立生活運動と呼びうる要件を備えているかどうかを検証することである。自立生活とは、入所施設や家族の監督下のような自由度の低い生活からの脱却を目指し、障害者が自己決定に基づいた生活をする事である。そして、自立生活運動とはそれら実現するための運動である。

かかる検討の背景には、日本における自立生活運動をめぐる議論についての報告者の疑問がある。これまでの自立生活運動研究を、日本の自立生活運動の始点及び特徴という点からまとめると次のようになる。第1に障害者の自立生活運動がアメリカのそれに影響を受けて1980年代に日本でも普及したとするものである。第2に、日本でも1970年代から障害者解放運動と呼ばれていた運動の中で、自立生活運動は展開されていたとする立岩による研究である。第3に、まった量の言及ではないが、1970年代の運動と1980年代の運動の両者が親元や施設から離れる志向をもっていった点で共通していることには同意しつつも、1970年代の日本の自立生活運動とアメリカの自立生活運動（1980年以降の日本の自立生活運動）では、自立の要件に相違があったとする指摘がある。

報告者はこれまで立岩の研究に依拠しつつ、1970年代や1980年代の日本の障害者運動を自立生活運動として論じてきた。しかし、第3の指摘に応答するためには、1970年代と1980年代以降の運動がいかに接続しているかを明らかにする必要がある。その一環として、本報告は車いす市民全国集会を取り上げる。その理由は、現在の日本における自立生活運動の担い手がこの集会に参加していたからである。以上のような問題意識から、本報告では、車いす市民全国集会に自立生活運動と呼ぶための条件を備えているか否かを検討し、その意義を明らかにする。

## 2. 研究の視点および方法

本稿の方法は次の通りである。まず、主要な情報源としては車いす市民全国集会が行われた後、発行されている各年度の報告集がある。この中でそれぞれの参加者がどういう状態に至ることが自立していると考えているかが本報告の中心的な視点となる。また、ある状態を自立しているとした上で、それを支えるためのいかなる支援が求められているかに注目する。さらに、自己決定を自立の要件としている意見と、そうした意見に対する他の参加者の反応についても検討する。最後に、拾い上げた自立に関する参加者の見解がどの程度、集会の中で共有されているかを検討する。

### 3. 倫理的配慮

文献からの引用については、日本社会福祉学会研究倫理指針の「A 引用」に規定された指針を、発表にあたっては指針の「G 学会発表」を遵守している。

### 4. 研究結果

先行研究では、アメリカの自立生活運動の方が日本のそれよりも自立生活の要件を自己決定に求める志向が強い。そして、自己決定を求める志向の強さは、日本の1970年代の自立生活運動と1980年代の自立生活運動を区画する相違になっていると考えられていた。

そこで、車いす市民全国集会の大会の報告書を検討すると、第1に自立と自己決定の関係をめぐって活発に議論されていることが明らかとなった。たとえば、次のような議論がそうである。

（私は地域で独立するということは、健常者と同じように働き、それを得て生活することだと思うが、どうでしょうか（報告書作成委員会 1981：40）。

一般的には、日本社会ではそのように考えられているが、それがすべてというのではむずかしいのではないか。それ以前にもっと根本的なことである、自分自身で物を考えて決断し、責任ある行動をとるということ、まずそのことが基本にならなければならないのではないか（報告書作成委員会 1981：40、下線による強調は報告者）。

### 5. 考察

これまでの自立生活運動に関する研究では、1970年代における障害者解放運動とも呼ばれる運動が日本の自立生活運動と呼べるかどうかを十分に検討したとは言えず、各年代の典型的な団体に着目し、運動同士の関係を考慮せずに、著名な活動をつなげて「歴史」として記述しているきらいがある。そこで本稿では、1970年代の障害者解放運動（自立生活運動）とは別の流れとして車いす市民全国集会に注目した。車いす市民全国集会は、「青い芝の会」等の障害者解放運動の参加者も含みながら、全体としては自己決定を自立の要件とみなす議論を展開していた。本報告の結果は障害者解放運動と現在の自立生活運動を直線的に結び付けて歴史として提示することには一部の地域を除いて無理があり、特に自立の要件に強い自己決定への志向を不可欠のものとするならば、障害者解放運動とは相対的に独立した形で車いす市民全国集会が展開し、そこから現在の自立生活運動の担い手が生み出されていったと考える方が自然であることを示している。

#### 【引用文献】

報告書作成委員会（1981）『第4回車いす市民全国集会報告書』車いす市民全国集会運営委員会。